

日本留学試験 (EJU) 結果

許哲瑄さん 校内最高の 350 点

6月17日に15の国・地域で実施された日本留学試験(総受験者数29,779人)に、JETからは28人が受験し、Aクラスの許哲瑄さんが「日本語」で400点満点中350点を取り、校内トップでした。全受験者の最高得点は374点でした。校内平均は257.6点で、全体の平均227.9点を20.5ポイント上回りました。

分野別で見ると、「聴解・聴読解」は馮靖凌さんが165点(200点満点で世界最高は176点)、「読解」は李建潁さんが190点(200点満点で世界最高は198点)でした。また、日本語の「記述」試験では、許哲瑄さんとQuekJingWenさんが50点(満点)でした。

【日本留学試験「日本語」校内ベスト10】

順位	氏名	出身	点数
1	許 哲瑄	台湾	350
2	馮 靖凌	台湾	345
3	李 建潁	台湾	327
4	莊 惟舜	台湾	322
5	林 俊宏	台湾	311
6	Chung Sim Peng	マレーシア	307
7	Quek Jing Wen	マレーシア	304
8	金 昭利	韓国	302
9	谷 雲琪	台湾	296
10	Chung Sim Yee	マレーシア	294

なお、EJUの「総合科目」では金昭利さん、「数学1(文系)」では許哲瑄さん、「数学2(理系)」では莊惟舜さん、「物理」では鄧少瑜さん(台湾)、「化学」および「生物」では莊惟舜さんがそれぞれ校内トップの成績でした。

校内スピーチ大会

最優秀賞に ChungSimYee さん

7月27日、第24回校内スピーチ大会を行ないました。

各クラスで予選を勝ち抜いた代表16人が、日頃の日本語の学習成果を競い熱弁をふるいました。初級クラスからはインドネシアのYolenta Dwi Putriさん、Marianne Syanell Sendukさん、マレーシアのNurul Hafizah Binti Hassanさん、台湾の廖恆毅さんが出場しましたが、中上級クラスの学生に引けを取らないレベルの高さでした。

最優秀賞にはAクラスのChung Sim Yeeさん(マレーシア)

が選ばれました。優秀賞はDクラスの劉慧美さん(香港)、Bクラスの陳琛鈞さん(台湾)、BクラスのDamar Kumaraさん(インドネシア)の3名が受賞し、努力賞はCクラスの陳柏均さん(台湾)に贈られました。

この日は日頃お世話になっている北区総務課の方々をはじめ、椿邦司区議会議員、拓殖大学の学生等、約20人の方が観覧に見えました。就職セミナーで講師を務めていただいている李昌宏様からは温泉券を賞品としてご提供いただきました。

スピーチ大会を盛り上げるポスターは、John Arnestusさん(インドネシア)と陳姍姍さん(台湾)が作成しました。

ポスター掲示には、麵屋ほたる、スワンカフェ&ベーカリー滝野川店、ローソン滝野川七丁目店、城北信用金庫巢鴨支店、板橋国際交流財団のご協力をいただきました。また今年も輪島塗・漆工芸作家の垣内幸彦様から優秀賞賞品のご協賛をいただきました。ありがとうございました。

7月短期コースに入学したばかりのIクラスの学生たちは、習いたての日本語で自己紹介をして、歌「涙そうそう」を披露しました。(2面に関連記事)



↑スピーチ大会入賞者。左から陳柏均さん、劉慧美さん、陳琛鈞さん、Damar Kumaraさん、Chung Sim Yeeさん。

【全出場者(クラス・国籍)と演題】

1	谷 雲琪	(A・台湾)	「愛されるより愛することこそが幸せ」
2	Aranto Munaf	(F・インドネシア)	「なぜ日本？」
3	Khoo Yit Meng	(D・マレーシア)	「私の生きがい」
4	陳 琛鈞	(B・台湾)	「変えるきっかけ」<優秀賞>
5	Nurul Hafizah Binti Hassan	(H・マレーシア)	「時間とお金」
6	Yolenta Dwi Putri	(G・インドネシア)	「本から得られなかったもの」
7	黄 芋瑜	(C・台湾)	「日本語のおかげで」
8	遠藤まりあ	(E・フィリピン)	「日本語は便利じゃない？」
9	Marianne Syanell Senduk	(H・インドネシア)	「Time」
10	劉 慧美	(D・香港)	「笑顔って必要？」<優秀賞>
11	廖 恆毅	(G・台湾)	「宇宙よりも遠い場所」
12	Damar Kumara	(B・インドネシア)	「食べ物をなめんじやない！」<優秀賞>
13	Chung Sim Yee	(A・マレーシア)	「モチベーションのきっかけ」<最優秀賞>
14	陳 柏均	(C・台湾)	「縁(えん)」<努力賞>
15	Vivattanasan Piraya	(F・タイ)	「私の存在の意味」
16	Reinardus Alvin	(E・インドネシア)	「見えない将来」

【スピーチ大会最優秀賞のスピーチ文】

「モチベーションのきっかけ」



チュンシンイー(マレーシア)

私はマレーシアで小学生だった時、平凡な人間にすぎなかったです。クラスでずば抜けてるとも言えないし、運動も上手じゃなかったし、いくらコンテストに参加しても一度も賞をもらったことがありません。

逆に、クラスで一番下の成績になったり、落ちこぼれたりすることはありませんでした。適当にやっていたら適当に合格できました。そんな子供でした。その時の私は常に「第1位をとらなくてもいいよ」という考えを持っていました。

しかしながら、高校の卒業試験で私は自分の結果にとてもとても不満でした。「なんでこんな点数を取ったの？皆と同じぐらい頑張ったのに」と思っていました。成績表を持っていると、友人に見られてしまって「え？ユイって頭いいんじゃない？これってあなたのじゃないよね？」と言われました。その言葉を聞いて大ショックで、悔しさが増しました。もしかして、私が設定した限界は低すぎるのではないかと。そして残念な気持ちで卒業しました。

卒業してから日本に来るまでは一年ぐらい日本語を勉強しました。私は負けず嫌いな性格なので、いつも教室でトップを目指しました。そしてやっと日本に来る日が来ました。いつも教室でいい点数を取っているから、日本人と話しても大丈夫だろうと思って、自信満々な私は区役所へ在留カードの住所を登録しに行きました。

しかし、その時は、完全に敗れましたね。みんなの日本語で習った言葉しかわからなかった私は、カウンターの人が何を言ってもほぼわかりませんでした。でも実は、それがきっかけでモチベーションがあがったんです。私はもっと日本語を上手に話したいと決意して、今でもそれを目指しているわけです。

今年のある日のある授業で、山口先生から日本の地図の紙が配られました。「まず、教科書を見ないで、知っている場所を書きましょう」という練習でした。私は北海道や東京の位置しかわかりませんでした。そうです。東京の上なのに埼玉県も知らなかったんです。先生は、私の紙を見て、「え？埼玉県の位置も知らない？信じられない！」と言いました。私はすごく悔しかったです。惨めな気持ちでした。けれども、その時先生の言ったことは受け入れるしかなかったんです。

でも、実は、それがきっかけでモチベーションはまた、上がってきました。「私は日本の地図を一気に覚える！」と決意しました。そして、私は一晩で全部覚えめました。そう、私は悔しかったですが、先生に感謝しています。先生が私に言わなければ、今の私も日本の地図を知らないままだったでしょう。

少し長かったですが、みなさんは気が付きましたか。私は自分自身からモチベーションが出てくるのではなく、常に他人からの行動や言葉が私の意欲を刺激して、モチベーションになるわけです。言いたいことは、もし皆さんが他人に批判されてもそれで諦めないでください。悔しくて涙を流しても、それをモチベーションに替えてみてはどうでしょうか。気が付かないうちに足は動いているかもしれませんよ。七転び八起きという言葉があります。七回転んでも、八回目に起き上がりましょう！

以上で私のスピーチを終わります。ありがとうございました。

【スピーチ大会優秀賞のスピーチ文】

「笑顔って必要？」

劉慧美(香港)

突然ですが、皆さん、笑うことが好きですか？笑うのは簡単ですが、笑いたくないときもあるでしょう。最初日本へ来たばかりの頃、日本人の笑顔を見て、心が溶けるように暖かくなりました。「よかったね、ここは日本だ！だって、香港人はみんなポーカーフェイスをしていて、冷たいなあ。」と思っていたからです。香港人の私にとって、その笑顔がすごく気に入っています。

日本に来てからまず驚いたのは、ある日デパートのエレベーターでエレベーターガールに会ったときのことです。エレベーターガールの仕事内容はただボタンを押して、お客さんに停止階を案内するだけだと思いますが、その時のエレベーターガールはずっと笑っていて、無表情な顔が全然見えなかったのです。「一体なにを笑っているの？笑えることがないのに、それは変じゃない？」私はそう考えました。皆さんも知らない人や全然親しくない人がいきなり自分に笑ってくれて、すこしその笑顔の意味がわからないと思ったことはありませんか？ことわざでいうと、「笑みの内の刀」と言えます。表面はにこにこ笑っているのに、内心は腹黒い人間であるという意味です。以前、私はよくこのようなことを考えました。笑顔って必要ないんじゃないでしょうか？

しかし、3か月前に、日本でアルバイトをして初めて、ついに笑顔の大切さがわかるようになりました。私は今コンビニで働いています。コンビニでアルバイトを始めたばかりの私にとって、たばこの銘柄は全部覚えようがないでしょう。しかも、全部、カタカナで。漢字が大好きな私はとても困りました。店長には「もし本当にわからない場合があれば、お客様に番号で聞いてください。」と言われました。たばこの銘柄だけではなく、やっぱり日本語の能力がまだまだです。時々お客様がおっしゃったことはわからない場合もあります。「どうすればいいですか。どうやって仕事が順調にできますか。」とずっと考えていました。そのために、「できる限りのことを全部やろう！」と決心しました。具体的に言うと、お客様にちゃんと笑って、お辞儀もします。そうすると、ある日店長に言われました。「ラウさん、実は番号で聞くと、怒るお客様が多いですよ。でも、ラウさんが毎回番号で聞いているのに、お客様が怒らない上に、親切に教えてくれるのは、たぶん笑顔のおかげです。どうか、続けてほしいなあ。」

実は人は笑顔を見るのが好きに決まっています。例えば、笑っている新垣結衣さんと笑わない新垣結衣さんは、同じことを言います。「初めまして、新垣結衣です。」と「初めまして、新垣結衣です。」皆さん、どちらがいいと思いますか？見た目はさておき、どちらと友達になりたいですか？

笑顔には不思議な力があります。人間関係の改善からストレスの解消まで、多くの範囲に影響をあたえています。特に私たち留学生、日本語がわからない場合は多いですよ。そういう場合は、すこし笑って、「すみません。」と言えば、相手はきっと親切に教えてくれるのです。また、皆さんは楽しいときに笑いますよね？反対に、笑ったら楽しくなると思いませんか。それで、笑うことは自然の薬とも言えます。副作用もないし、お金もかからないし、笑わない理由が見つからないです。もちろん、なんでも笑えばいいというわけではありませんが、これから、もし気分転換したいとき、笑ってみましょう。気分が落ち込んだ時は、無理かもしれませんが、試してみれば、きっとなにか変えられるだろうと私は信じています。皆さん、今後も一緒に笑いましょう。ご清聴ありがとうございました。

5か国からサマーコースに

6月29日から夏の短期コースが開講しました。台湾から18人、タイ3人、香港2人、インドネシア1人、スペイン1人の合計25人が参加。昨年のサマーコースのリピーターも。

14人は既存のクラス(初級～中級)に編入し、11人が新たに開設した初級クラス(Iクラス)に入りました。

7月30日から8月10日までの2週間は、レベル別の会話クラスに移行しました。

学 校 日 誌

- 6月19日 **学習院大学で特別授業**。井上校長と山口先生が、日本語教育を学ぶ3年生約30人に、日本語教師という職業の魅力や日本語学校の問題点などについて講義をしました。
- 6月22日 大学院進学希望者による第1回**研究計画発表会**。大勢の先生方の前で、緊張しながらの発表でした。
- 6月25日、27日、29日 **健康診断**。北区保健所で胸部レントゲンで結核の検診を行いました。全員異常なしでした。
- 6月27日 校内で**大学の説明会**。芝浦工大、東京農工大、東京理科大の3校がブースを設けました。(QtoJAPONの主催)
- 6月29日 **漢字進級テスト**。7級クラスの楊子瑩さん(台湾)と梁曦彤さん(香港)、8級クラスのKharisma Gunawanさん(インドネシア)は満点で合格しました。3人は翌週から、それぞれ2級上のクラスに飛び級となりました。
- 7月5日 **避難訓練**。校舎内で火災が発生したという想定で、北谷端公園に避難しました。大地震の場合もこの公園と隣接する谷端小学校が避難場所となることを確認しました。
- 7月6日、10日、12日 北区防災センターで**防災訓練**を行いました。
- 7月11日 **登山教室**。夏休みに富士山を登る計画をしている人を対象に、井上校長と森山先生が、基本的な装備や、山での注意点について講習を行いました。
- 7月11日 **泊江高校**に台湾人学生4人を派遣。10月に台湾に修学旅行を予定している高校生に、中国語の指導をしました。台北の大同高校で中国語のプレゼンを行います。
- 7月17日～8月2日 **独協大学から教育実習生**。稲葉梨紗さんと飯野夏美さん。会話クラスでの交流会にも参加してくれました。
- 7月20日 **浴衣の着付け教室**。24日の花火大会に行くときは自分で浴衣が着られるように練習しました。卒業生の陳紫瑩さん(香港)が手伝ってくれました。
- 7月23日 木村先生がBクラスで**公開研究授業**。自分の関心のある新聞記事について発表する授業でした。多くの先生が熱心に参観しました。



♡♡♡ 新任の先生紹介 ♡♡♡

6月29日から新たに2人がJETの教師陣に加わりました。お二人とも立教大学のご出身です。

大塚 雅子 先生

餃子の街、栃木県宇都宮市出身です。私の作る餃子ははっきり言っておいしいです。今は横浜市に住んでいるので、横浜ベイスターズを応援しています。子どもの頃から舞台を見るのが好きで、ミュージカル、バレエ、歌舞伎などをよく見てきました。



山崎 富貴子 先生

大学は東京でしたが、その後、奈良→札幌→松本→名古屋→兵庫と、日本各地を転々とし、今年の4月に東京に戻ってきました。JETの見学に来た際、目をキラキラさせた学生の皆さんと温かい先生方に魅了され、是非この学校で働きたい!と思いました。



女子大で日本語を勉強した感想

陳柏均(台湾)

8月6日から10日まで、私は東京女子大学で日本語クラスに参加しました。テーマは「私とジブリ」です。主に「千と千尋の神隠し」という映画を中心に討論しました。実は、この作品を見たのは大体十年前です。あの時、私はただ映画を見ました。宮崎監督はこの作品によって、何を表したいか、全然考えたことがありません。でも、今回の日本語クラスのおかげで、大学生及び他の参加者と話し合ううちに、様々な「千と千尋の神隠し」に関しての新しい発見ができました。そして、3日目、大学生と参加者全員は三鷹の森美術館に行きました。この美術館のチケットは買いにくいと言われていたのですが、このコースに参加することで、美術館に行けたのはラッキーだと思います。この5日間、毎日色々な発表があったので、日本語を話すチャンスがたくさんありました。話せば話すほど大学生及び他の参加者との仲が良くなったので、このコースを通して、日本人の友達ももとより、中国からの友達も、韓国からの友達も、更にジャマイカからの友達もできました。本当に、このコースに参加して、よかったです。



JETからは3人が参加。スクリーン前の左端が陳柏均さん。

大学生との交流で日本語をたくさん話そう!

明治大、学習院大、早稲田大、独協大、東京女子大、昭和女子大、お茶の水女子大などの日本人大学生と、様々なかたちで交流することを通して、日本語でのコミュニケーション力を鍛えました。

- 6月11日 F(初中級)クラスに明治大学の日本人学生4人を迎えて、またG(初級)クラスに明治大生と学習院大生5人を迎えて、交流授業を行いました。



- 6月22日～24日 早稲田大学の国際交流サークルWICの主催で行われたショートホームステイに、JETから3人が参加しました。週末、大学生のお宅に泊まりました。
- 6月24日 SNIE(国際交流大学連絡協議会)主催の東京オリエンテーリングにJETから3人が参加しました。
- 7月5日 WIC主催の「日本教室」にJETから15人が参加しました。
- 7月13日 東京女子大学をAクラスとBクラス15人が訪問しました。学生同士の交流会の後、松尾慎先生の日本語教育の授業に加わりお手伝いをしました。
- 8月1日 独協大生2人を招いて、サマーコースの初中級クラスで交流授業を行いました。
- 8月3日 WICから5人を招いて、サマーコースの初級クラスで交流授業を行いました。
- 8月6日～10日 東京女子大学で日本語教育を学ぶ学生たちによる「日本語コース」に3人が参加しました。(3面に参加した学生の感想文)
- 8月10日 昭和女子大とお茶の水女子大から3人を招いて、サマーコース初中級クラスで交流授業を行いました。

ア ク テ イ ウ イ テ イ

- 6月15日 国立劇場での歌舞伎鑑賞会に19人が参加。『連獅子』の迫力ある舞台を楽しみました。
- 6月21日 Eクラス16人が東京フランス学園(リセ)を訪問し、5年生19人と日本語で交流しました。「子どもたちはとても好奇心が強い。質問が活発」「敬語を使ってくれた」「礼儀正しい」「フランス人だけど意外に日本の食べ物が好き」「私ももっと日本語頑張らなくちゃ」という感想が聞かれました。たった1時間の交流でしたがすっかり仲良くなり、お別れは抱き合って名残を惜しむシーンも。
- 7月4日 国立劇場での歌舞伎鑑賞教室。19人が参加。演目は『日本振袖始』でした。



↑自国の文化(ことば、食べ物、名所など)を紹介するJETの学生

- 7月13日 Iクラスのサマーコース生らを引率して江戸東京博物館に行きました。本校の高木啓副理事長(衆議院議員)の招待です。
- 7月17日 ヒコみづのジュエリーカレッジ専門学校による体験授業に6人が参加しました。
- 7月18日 東京製菓学校で体験授業。16人がロールケーキ作りに挑戦しました。
- 7月18日 得猪先生による茶道体験に約40人が参加しました。
- 7月29日 和光市で開かれた高田馬場管絃楽団の定期演奏会に、常任指揮者の森山崇さん(森山先生のお父様)が学生を招待してくださいました。
- 7月24日 葛飾柴又で行われた花火大会を約70人が見に行きました。炎天下の場所取りに志願してくれた学生と教職員のみなさん、お疲れさまでした。
- 7月30日～8月6日 神奈川県湯河原町で行われる「やっさ国際交流ホームステイ事業」に6人が参加しました。

湯河原ホームステイの思い出

ホストファミリーはお祈り(仏教)もしました。毎日2回だけしました。私のお祈り(イスラム教)を見せてあげました。私は毎日5回しました。午前4時、12時、3時半、6時15分、最後は8時くらいにしました。私のホストファミリーは、大変だと言いました。仏教はお祈りのかたちはちょっと違いました。午前のお祈りが短くて、夜のお祈りが長かったです。いろいろな動きがありました。時々立っていました。あとで座っていました。びっくりしました。

お祈りをした後で、マレーシアのジャウィ文字を書いてあげました。ホストファミリーの名前を書いて読んであげました。ホストファミリーはジャウィ文字を勉強しました。びっくりしました。(ヌルル・ハフィザ ★マレーシア)



♪ ♪ ♪

私のお父さんは陶芸家です。私に作り方を教えてくれました。陶芸で作るものは、例えば茶碗とかフォトフレームとか灰皿などです。私は茶碗に挑戦しました。作り方はそんなに難しくなかったのですが、やる気がないと結果が悪くなると思います。茶碗は焼かなければなりません。それに着色もありますので時間がかかります。作業する時間は一日しかなかったので、仕上げはお父さんをお願いして、出来上がったものは秋休みに取りに行くつもりです。

やっさ踊りもやりました。パレードには町からいろいろなチームが参加しましたが、私たち留学生のチームが優勝しました。忘れられない思い出になりました。(ヨレンタ・ドウィ★インドネシア)